

坂本しのぶさんスピーチ

写真は朝日新聞 9 月 29 日朝刊。スイス・ジュネーブで開かれている水俣条約の第 1 回締約国会議(COP1)で 28 日、胎児性水俣病患者の坂本しのぶさん(61)=熊本県水俣市が、閣僚級会合前の公式行事「水俣への思いを捧げる時間」でスピーチした。全文を紹介。



水俣条約第 1 回締約国会議の「水俣への思いを捧げる時間」でスピーチする坂本しのぶさん(中央) =スイス・ジュネーブの国際会議場

私は坂本しのぶです。

水俣から来ました。

お母さんのおなかの中で水俣病になりました。

胎児性水俣病です。

みんなと同じにできません。

走ったり、水俣病になつたらんば(なっていなければ)いろんなことができたのと思えば悔しいです。(原因企業の)チッソが絶対許せません。

私は 15 歳に時にスウェーデンに行きました。

水銀のおそろしさを伝えに行きました。

61 歳になりました。

みんなどんどん悪くなっています。

歩けなくなりました。

この T シャツは胎児性の方が書いてくれました。

みんなの気持ちを持ってきました。

私も悪くなっています。

これが最後だと思って来ました。

何べんも何べんも言って来ました。

水俣病は絶対に終わっておりません。

今も裁判で闘っている人がおります。

水銀が埋め立て地にあります。

県も国も何もしておりません。

患者の気持ちになってやってください。

水俣病は終わっておりません。

公害を起こさないでください。

女の子と子どもを守ってください。

一緒にしていきましょう。



坂本しのぶさん(左)とともに(提供 朝日新聞社)

下の写真は『対話集 原田正純の証言』岩波書店、2013 年より。左はストックホルムで「汚された日本」という英文パンフレットを配る坂本しのぶさん、15 歳(1972 年 6 月 7 日)。右は坂本しのぶさん、母・フジエさんと原田正純先生。

(2017 年 10 月 3 日)